

内科学第一

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	1人 (1人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	5人 (2人)
診療助教	1人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	9人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	12人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	3人
合 計	33人

1-2 教員の異動状況

宮嶋 裕明 (教授)	(H11.10.1~H19.3.31助教; H19.4.1~H22.6.30 准教授; H22.7.1~現職)
杉本 健 (准教授)	(H20.6.1~H23.1.31 助教; H23.2.1~H25.10.31講師; H25.11.1~現職)
安田日出夫 (講師)	(H18.4.1~H18.10.1~救急医学助手; H19.12.16~H25.5.31病院講師; H25.12.1~現職)
辻 孝之 (助教)	(H24.6.1~H25.12.31診療助教; H26.1.1~現職)
岩泉 守哉 (助教)	(H26.4.1~現職)
濱屋 寧 (助教)	(H28.4.1~現職)
黒田 龍 (助教)	(H27.4.1~現職)
藤倉 知行 (助教)	(H28.11.1~現職)
磯部 伸介 (診療助教)	(H28.10.1~現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	無セルロプラスミン血症をモデルにした脳内における微量金属代謝の機能解析と神経変性疾患発現における微量金属の役割についての研究
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	【背景】セルロプラスミン遺伝子異常症では、鉄代謝だけでなく、多くの微量金属(ニューロメタル)代謝の異常が生じている。亜鉛代謝は、鉄の毒性発現と神経症状発症に防御的に関与している可能性があり、治療への応用が期待される。また、銅、マンガンなども神経変性に関与している可能性が示唆されている。 【目的】微量金属代謝の中心であるシナプスでのニューロメタルの動的な平衡、調節機構を解明する。 【内容】鉄、銅、亜鉛、マンガンのトランスポーターと調節タンパク質の同定とそのメカニズムを培養細胞を用いて明らかにする。
	(3) 前年度までの状況	無セルロプラスミン血症の剖検脳を用いて、脳の各部位、細胞へのニューロメタルの分布と定量を行い、鉄、銅、マンガンの増加、亜鉛の減少を見出した。
	(4) 当該年度内の進捗	培養細胞における鉄排出系に関する他のニューロメタルの作用を検討する。
	(5) 翌年度の方針と予想	亜鉛の鉄排出に関する促進作用のメカニズムを明らかにする。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名	マイクロサテライト不安定性標的遺伝子MBD4変異と大腸がん薬物療法の感受性変化
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	大腸がんの発育進展の原因のひとつであるマイクロサテライト不安定性 (MSI) により誘導されるDNAグリコシラーゼMBD4 のフレームシフト変異が、大腸がん化学療法のKey Drugに対する大腸がん細胞の感受性をどのように変化させるかを解明することを目的としている。
3	(1) 研究・開発等のテーマ名	腹腔内マクロファージの分化誘導およびサイトカイン産生誘導による炎症性腸疾患の制御の可能性
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	マクロファージ(Mφ)は自然免疫を担当する細胞の一つで、腸管や腹腔内に豊富に存在し2種類のサブタイプ(M1, M2)にわかれその粘膜組織の恒常性を維持している。M1は抗菌作用、抗腫瘍作用を持ち、M2は抗炎症作用、組織再生効果、腫瘍促進作用を持つといわれているが、その確認には、従来骨髄由来Mφが用いられてきた。腹腔内MφのM2も抗炎症作用を持つと考えられるが、腹腔内Mφが骨髄由来Mφと同様な分化能、および働きを持つとどうかの詳細な検討は十分になされていない。今回我々は腹腔内Mφの2種類のサブタイプへ分化誘導し、炎症性腸疾患マウスモデルを用いて腹腔由来M1、M2マクロファージの炎症制御能およびそのメカニズムについて検討する。
	(3) 前年度までの状況	腹腔内MφはM1、M2への分化能を有することを確認した。腹腔内Mφより分化したM2は、Th2サイトカインであるIL-4、IL-13の増幅および、抑制性のサイトカインであるIL-10、TGF-βの増幅が確認された。IL-10に関してはELISAでも分泌の増加が確認されM1にくらべ、M2では炎症抑制の作用が強いことが示唆された。またM2に分化させた腹腔マクロファージはex vivoにおいてT細胞増殖の抑制を認めた。M1、M2との増殖反応でえられたT細胞のサイトカインプロファイルを調べたところ、M2と共培養したT細胞で、M1と共培養したT細胞に比べ、Th2サイトカインであるIL-4、IL-13の増幅が確認された。
	(4) 当該年度内の進捗	本テーマに関連した論文がpublishされた。(Oishi S, Takano R, Tamura S, Tani S, Iwaizumi M, Hamaya Y, Takagaki K, Nagata T, Seto S, Horii T, Osawa S, Furuta T, Miyajima H, Sugimoto K: M2 polarization of murine peritoneal macrophages induces regulatory cytokine production and suppresses T-cell proliferation, Immunology, 149(3), 320-328, 2016.)
	(5) 翌年度の方針と予想	マウス炎症性腸疾患モデルを用いてM2に分化させた腹腔内マクロファージが炎症抑制能を有するかどうかを検討する。

4	(1)研究・開発等のテーマ名	腎臓内レニン-アンジオテンシン系(RAS)活性の日内変動と、腎臓障害や血圧の日内変動との関連を解明する研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	腎臓内RASの活性化は、腎臓障害を惹起し高血圧を生じるが、腎臓内RAS活性の日内変動の有無、及び腎臓内RAS活性の日内変動が腎臓障害や血圧の日内変動に関与するかは不明の為、これらの解明を研究目的としている。
5	(1)研究・開発等のテーマ名	敗血症性急性腎障害におけるToll like receptor 9(TLR9)-IL-17経路の役割の検討
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	敗血症モデルにおいて、TLR9ノックアウトマウスでは炎症が軽減し、急性腎障害や死亡率は改善する。また、TLR9を介したIL-17産生が報告されている。これらのことから IL-17はTLR9活性によって誘導され、敗血症による急性腎障害を導く全身性免疫応答の中心的な役割を担っているという仮説をたてた。そこで敗血症性急性腎障害におけるTLR9-IL-17経路の役割を両ノックアウトマウスを用いて検討する。
6	(1)研究・開発等のテーマ名	膵癌におけるMSH3発現異常の検討
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	本研究は膵癌でのMSH3発現異常を解明することを目的とする。大腸癌をはじめとした他の癌ではMSH3発現異常が5FU感受性や予後因子となることが報告されており膵癌でもバイオマーカーとなりえるか検討する。ヒト検体からDNAを抽出しフラグメント解析によりMSH3発現異常に伴って起こるマイクロサテライト不安定性を評価する。また膵癌細胞株でMSH3のノックアウトを行いLOHの頻度などの検討を行う。
	(3)前年度までの状況	これまでは、ヒト臨床検体40例を用いた検討を行い、18例でMSH3発現異常により起こるマイクロサテライト不安定性を認めた。
	(4)当該年度内の進捗	今年度はMSH3ノックアウト膵癌細胞株を作成していた。またMSH3発現異常を引き起こすサイトカインの検索を、免疫組織染色を用いて行ったが、残念ながら候補となるサイトカインを見つけることはできなかった。
	(5)翌年度の方針と予想	引き続きMSH3ノックアウト膵癌細胞株を作成を行い、MSH3発現異常に伴って起こる異常(LOHの頻度や化学療法感受性など)を検討し、臨床検体での検討内容に反映させる。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	16編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	54.121
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	1編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	6編 (5編)
そのインパクトファクターの合計	1.953
(4)著書数(うち和文のもの)	14編 (14編)
(5)症例報告数(うち和文のもの)	2編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	3.619

(1) 原著論文**A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	<u>Oishi S, Takano R, Tamura S, Tani S, Iwaizumi M, Hamaya Y, Takagaki K, Nagata T, Seto S, Horii T, Osawa S, Furuta T, Miyajima H, Sugimoto K</u> : M2 polarization of murine peritoneal macrophages induces regulatory cytokine production and suppresses T-cell proliferation, Immunology, 149(3), 320-328, 2016.	4.078
2.	<u>Suzuki S, Iwaizumi M, Tseng-Rogenski S, Hamaya Y, Miyajima H, Kanaoka S, Sugimoto K, Carethers JM</u> : Production of truncated MBD4 protein by frameshift mutation in DNA mismatch repair-deficient cells enhances 5-fluorouracil sensitivity that is independent of hMLH1 status, Cancer Biol Ther, 17(7), 760-768, 2016.	2.921
3.	<u>Kagami T, Sahara S, Ichikawa H, Uotani T, Yamade M, Sugimoto M, Hamaya Y, Iwaizumi M, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Furuta T</u> : Potent acid inhibition by vonoprazan in comparison with esomeprazole, with reference to CYP2C19 genotype, Aliment Pharmacol Ther, 43(10), 1048-1059, 2016.	6.320
4.	<u>Ichikawa H, Sugimoto M, Sakao Y, Sahara S, Ohashi N, Kato A, Sugimoto K, Furuta T, Andoh A, Sakao T, Yasuda H</u> : Relationship between ghrelin, Helicobacter pylori and gastric mucosal atrophy in hemodialysis patients, World J Gastroenterol, 22(47), 10440-10449, 2016.	2.787
5.	<u>Ichikawa H, Sugimoto M, Sugimoto K, Andoh A, Furuta T</u> : Rapid metabolizer genotype of CYP2C19 is a risk factor of being refractory to proton pump inhibitor therapy for reflux esophagitis, J Gastroenterol Hepatol, 31(4), 716-726, 2016.	3.322
7.	<u>Tsuji N, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Fujigaki Y, Yasuda H</u> : Role of mitochondrial DNA in septic AKI via toll-like receptor 9. J Am Soc Nephrol 27(7): 2009-2020, 2016.	8.491
8.	<u>Isobe S, Ohashi N, Ishigaki S, Tsuji T, Sakao Y, Kato A, Miyajima H, Fujigaki Y, Nishiyama A, Yasuda H</u> : Augmented circadian rhythm of the intrarenal renin-angiotensin systems in anti-thymocyte serum nephritis rats. Hypertens Res. 39(5):312-20, 2016.	3.208
9.	<u>Ishigaki S, Ohashi N, Isobe S, Tsuji N, Iwakura T, Ono M, Sakao Y, Tsuji T, Kato A, Miyajima H, Yasuda H</u> : Impaired endogenous nighttime melatonin secretion relates to intrarenal renin-angiotensin system activation and renal damage in patients with chronic kidney disease. Clin Exp Nephrol. 20(6):878-884, 2016.	1.945
10.	<u>Iwakura T, Fujigaki Y, Fujikura T, Ohashi N, Kato A, Yasuda H</u> : Acquired resistance to rechallenge injury after acute kidney injury in rats is associated with cell cycle arrest in proximal tubule cells. Am J Physiol Renal Physiol. 310(9):F872-84. 2016.	3.390

論文数(A)小計 9 うち和文 0 IF小計 36.462**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	<u>Furuta T, Sugimoto M, Kodaira C, Nishino M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Kagami T, Iwaizumi M, Hamaya Y, Osawa S, Sugimoto K, Umemura K</u> : Influence of low-dose proton pump inhibitors administered concomitantly or separately on the anti-platelet function of clopidogrel. J Thromb Thrombolysis. 2017 Apr;43(3):333-342	1.764
2.	<u>Ohashi N, Isobe S, Ishigaki S, Suzuki T, Motoyama D, Sugiyama T, Nagata M, Kato A, Ozono S, Yasuda H</u> : The Effects of Unilateral Nephrectomy on Blood Pressure and Its Circadian Rhythm. Intern Med. 55(23):3427-3433. 2016.	0.832
3.	<u>Ohashi N, Isobe S, Ishigaki S, Suzuki T, Iwakura T, Ono M, Fujikura T, Tsuji T, Otsuka A, Ishii Y, Furuse H, Kato A, Ozono S, Yasuda H</u> : Plasma Soluble (Pro)renin Receptor Reflects Renal Damage. PLoS One. 11(5):e0156165, 2016.	3.057

論文数(B)小計 3 うち和文 0 IF小計 5.653**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	<u>Mori M, Genda T, Ichida T, Murata A, Kamei M, Tsuzura H, Sato S, Narita Y, Kanemitsu Y, Ishikawa S, Kikuchi T, Shimada Y, Hirano K, Iijima K, Sugimoto K, Wada R, Nagahara A, Watanabe S</u> : Aldo-keto reductase family 1 member B10 is associated with hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma risk, Hepatol Res, 47(3), E85-E93, 2017.	2.208
2.	<u>Sakao Y, Sugimoto M, Ichikawa H, Sahara S, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Fujigaki Y, Sugimoto K, Furuta T, Sakao T, Yasuda H</u> : Severity of Gastric Mucosal Atrophy Is the Major Determinant of Plasma Ghrelin Level in Hemodialysis Patients, Am J Nephrol, 44(3), 224-33, 2016.	2.605
3.	<u>Nishito Y, Tsuji N, Fujishiro H, Takeda TA, Yamazaki T, Teranishi F, Okazaki F, Matsunaga A, Tuschl K, Rao R, Kono S, Miyajima H, Narita H, Himeno S, Kambe T</u> : Direct comparison of manganese detoxification/efflux proteins and molecular characterization of ZnT10 protein as a manganese transporter. J Biol Chem 291(8): 14773-14787, 2016.	4.258
4.	<u>Fukasawa H, Kaneko M, Niwa H, Matsuyama T, Yasuda H, Kumagai H, Furuya R</u> : Lower thigh muscle mass is associated with all-cause and cardiovascular mortality in elderly hemodialysis patients. Eur J Clin Nutr. 71(1):64-69.2017.	2.935

論文数(C)小計 4 うち和文 0 IF小計 12.006

(2-1)論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	石垣さやか, 片橋 尚子, 佐藤 太一, 辻 尚子, 内藤 善隆, 岩倉 考政, 磯部 伸介, 小野 雅史, 辻 孝之, 大橋 温, 加藤 明彦, 安田日出夫. ADPKD患者におけるパソプレシンV2受容体拮抗薬の尿中Na排泄への影響, 臨床体液2016 vol.43 p33-36, 2016.	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 1 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 0 IF小計 0.000

(2-2)レター

レター数小計 0 IF小計 0.000

(3)総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	杉本健: IBDに対する抗体薬治療のポイントーカルプロテクチン, ラクトフェリンを含めた糞便マーカーをどのように使っていくべきか? IBD Research, 10(4), 218-223, 2016.	0.000
2.	杉本健: 潰瘍性大腸炎に対するアダカラム (GMA) の有効性の再確認と免疫学的作用機序, 新薬と臨床, 65(7), 999-1000, 2016.	0.000
3.	宮嶋裕明: 銅代謝異常による汎血球減少症. 血液内科. 72(6): 820-824, 2016.	0.000
4.	宮嶋裕明: フェリチン症の臨床. 難病と在宅ケア. 22(11): 62-64, 2017.	0.000
5.	岩泉守哉, 相村春彦: 遺伝性腫瘍研究・腫瘍各論 家族性胃がん 遺伝子医学MOOK 別冊(最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング)202-206, 2016.	0.000

総説数(A)小計 5 うち和文 5 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Yamada T, Sugimoto K: Guggulsterone and Its Role in Chronic Diseases, Adv Exp Med Biol, 929, 329-361, 2016.	1.953

総説数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 1.953

(4)著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	杉本健: 血球成分除去療法の進め方, IBDを日常診療で診る~炎症性腸疾患を疑うべき症状と、患者にあわせた治療法, 羊土社 東京: 124-128, 2017.	
2.	宮嶋裕明, 河野 智: 鉄代謝と神経疾患. 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 川原信隆(編) Annual Review 神経 2017. Basic Neuroscience 生化学(分子生物学). 中外医学社. P.30-38, 2017.	
3.	辻 孝之: 炎症関連スコアには何がありますか? CKD患者の評価法として有用ですか? いまさら訊けない CKD患者 栄養・運動療法の考えかた, やりかた Q&A, 中外医学社, 東京 28-31, 2016.	
4.	磯部伸介, 加藤明彦: CKD患者のサルコペニア・フレイル 低栄養(原因、評価), 腎と透析, 東京医学社 東京 80(5), 703-707, 2016.	
5.	磯部伸介: 透析と栄養を理解する生化学 ビタミンD, 透析ケア, メディカ出版 大阪 23(1), 20-21, 2017.	
6.	磯部伸介: 透析と栄養を理解する生化学 ビタミンK, 透析ケア, メディカ出版 大阪 23(1), 22-23, 2017.	
7.	内藤善隆, 安田日出夫: AKIに対する持続的血液透析濾過法ではどういったことに注意して治療すればよいですか? そうだったんだ! 透析患者 外来・入院診療で迷わないための35のアドバイス, 文光堂, 東京 175-180, 2016.	
8.	内藤善隆, 安田日出夫: 悪液質とはどんな病態ですか? その診断法とCKD患者における現状を教えてください いまさら訊けない! CKD患者 栄養・運動療法の考えかた, やりかた Q&A, 中外医学社, 東京 84-88, 2016.	
9.	岩倉考政: CONUTスコアとはどういった評価法ですか? いまさら訊けない! CKD患者 栄養・運動療法の考えかた, やりかた Q&A, 中外医学社, 東京 32-34, 2016.	

10.	辻尚子, 加藤明彦:臨床所見・徴候からのアプローチ 味覚異常, 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ. 日本メディカルセンター, 東京 28-29(2), 2016.	
11.	辻尚子, 加藤明彦, 加藤明彦:エンドトキシン吸着の適応疾患, 実際の治療法, 治療中の注意点はなんですか? そうだったんだ! 透析患者 外来・入院診療で迷わないための35のアドバイス, 文光堂, 東京 181-186(6), 2016.	
12.	佐藤太一, 安田日出夫:急性腎障害(AKI). 透析患者診療に役立つ 診断と重症度判定のためのアプローチ 日本メディカルセンター 東京 p148-150, 2016.	
13.	石垣さやか, 加藤明彦:人体の構造と機能および疾病の成り立ち I 解剖生理学 腎臓, 中山書店, 78-86, 2016.	

著書数(A)小計 13 うち和文 13

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	小田巻真理, 川上栄子, 熊谷裕通, 円谷由子, 加藤明彦, 安田日出夫, 藤垣嘉秀, 菱田明: 自己記入式食塩摂取量調査票の開発と24時間蓄尿法による妥当性の検討, 日本病態栄養学会誌 20(1):149-158, 2017.	

著書数(C)小計 1 うち和文 1

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Iwakura T, Fujigaki Y, Katahashi N, Sato T, Ishigaki S, Tsuji N, Naito Y, Isobe S, Ono M, Sakao Y, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Miyajima H, Yasuda H: Membranous Nephropathy with an Enhanced Granular Expression of Thrombospondin Type-1 Domain-containing 7A in a Pregnant Woman. Intern Med. 55(18):2663-8, 2016.	0.832

症例報告数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 0.832

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

症例報告数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Takagaki K, Osawa S, Ito T, Iwaizumi M, Hamaya Y, Tsukui H, Furuta T, Wada H, Baba S, Sugimoto K: Inverted Meckel's diverticulum preoperatively diagnosed using double-balloon enteroscopy, World J Gastroenterol, 22(17), 4416-4420, 2016.	2.787

症例報告数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 2.787

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	6 件	1,054 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	1 件	240 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	1 件	300 万円
(7) 受託研究または共同研究	3 件	0 万円
(8) 奨学寄附金	15 件	805 万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	宮嶋裕明: 基盤研究C 神経細胞における鉄排出系の補完作用と亜鉛による調節効果の解析、平成26年度～平成28年度、代表	370万円
2.	杉本健: 基盤研究C IL-22産生を介した小腸粘膜防御機構の制御: IELとIECのクロストーク、平成25年度～平成28年度	104万円
3.	辻孝之: 基盤C 敗血症性急性腎障害におけるTLR9-IL-17経路の役割の検討、平成28年度(代表)	170万円
4.	岩倉考政: 若手B DPP-4阻害薬による急性腎障害後線維化軽減効果の検討 平成28年度(代表)	140万円
5.	安田日出夫: 基盤C 敗血症性急性腎障害モデルにおける好中球細胞外トラップの役割の解析、平成28年度(代表)	150万円
6.	岩泉守哉: マイクロサテライト不安定性SGO1変異による大腸がんの染色体不安定性誘導効果、平成28～30年度、代表	120万円

(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成

1.	宮嶋裕明: 難治性疾患克服研究事業、運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究、平成26年-平成28年分担、代表: 国立精神・神経センター、水澤英洋	240万円
----	---	-------

(6) 財団助成金

1.	岩泉守哉: (ファイザーヘルスリサーチ振興財団: 研究助成金) 腫瘍のプライマリケア遺伝診療の量的・質的評価: 日米比較 2016年12月～2017年11月、代表	300万円
----	---	-------

(7) 受託研究または共同研究

1.	治験に関する受託研究「企業 3件」	
----	-------------------	--

6 大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	6 件
2) シンポジウム発表数	0 件	6 件
3) 学会座長回数	1 件	6 件
4) 学会開催回数	0 件	1 件
5) 学会役員等回数	0 件	15 件
6) 一般演題発表数	8 件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等での座長

1.	Ken Sugimoto, Asian Pacific Digestive Week 2016 (APDW 2016), Kobe, Japan, November 5, 2016.
----	---

6) 一般発表

6-1) 口頭発表

1. Takuma Kagami, Hitomi Ichikawa, Shu Sahara, Takahiro Uotani, Mihoko Yamade, Yasushi Hamaya, Moriya Iwaizumi, Satoshi Osawa, Ken Sugimoto, and Takahisa Furuta, Comparison of gastric acid inhibition with vonoprazan and esomeprazole in healthy Japanese subjects; complete acid inhibition attained by vonoprazan, Digestive Disease Week 2016, May 21-24, San Diego, CA, USA.

6-2) ポスター発表

1. Ishigaki S, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Yasuda H. Evidence of Early Enhanced Effects of Vasopressin Type 2-Receptor Antagonist on Urinary Sodium and Potassium Excretion Kidney Week 2017 Nov 15-20, 2016 Chicago IL USA,
2. Isobe S, Ohashi N, Ishigaki S, Tsuji T, Kato A, Yasuda H. Nocturnal Blood Pressure Variability Is Associated with Renal Arteriolar Hyalinosis Suffering from IgA Nephropathy Kidney Week 2017 Nov 15-20, 2016 Chicago IL USA,
3. Tsuji N, Tsuji T, Ohashi N, Kato A, Yasuda H. Distribution of Neutrophil Extracellular Traps in the Kidney Suffering from Myeloperoxidase-ANCA Associated Vasculitis with Peritubular Capillaritis Kidney Week 2017 Nov 15-20, 2016 Chicago IL USA,
4. Isobe S, Ohashi N, Ishigaki S, Tsuji T, Kato A, Yasuda H. Nocturnal Blood Pressure Variability Is Associated with Renal Arteriolar Hyalinosis Suffering from IgA Nephropathy Kidney Week 2017 Nov 15-20, 2016 Chicago IL USA,
5. Naito, Y, Iwakura, T, Ono, M, Tsuji, T, Ohashi, N, Kato, A, Yasuda, H. Chronic Kidney Disease Patient Whose Renal Function Transiently Decreases In Summer Have Poor Renal Prognosis. ERA-EDTA 53rd Congress Vienna May 21st - 24th, 2016.
6. Iwakura, T, Fujikura, T, Ohashi, N, Yasuda, H, Fujigaki, Y. Cytoresistance Of Tubular Cells After AKI Induced By Uranyl Acetate In Rats Is Associated With Modulation Of Cyclin D1 And p27. ERA-EDTA 53rd Congress Vienna May 21st - 24th, 2016.
7. Hitomi Ichikawa, Mitsushige Sugimoto, Takuma Kagami, Shu Sahara, Satoshi Osawa, Ken Sugimoto, and Takahisa Furuta, Relationship between plasma ghrelin level and *Helicobacter pylori* status and gastric mucosal atrophy in hemodialysis patients, Digestive Disease Week 2016, May 21-24, San Diego, CA, USA.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

1. 宮嶋裕明: フェリチン症の臨床、第34回日本神経治療学会、米子、2016年11月3日
2. 宮嶋裕明: 認知症の臨床と最近の話題、第30回日本臨床検査自動化学会、浜松、2016年5月14日
3. 宮嶋裕明: 認知症の病態と治療、第17回日本早期認知症学会、熊本、2016年9月18日
4. 杉本健: 潰瘍性大腸炎に対するアダカラム®(GMA)の有効性の再確認と免疫学的作用機序、第91回日本消化器内視鏡学会総会ランチョンセミナー3、東京、2016年5月12日
5. 杉本健: 炎症性腸疾患診療の現状と今後、日本消化器病学会東海支部地方会第35回教育講演会、浜松、2016年6月18日
6. 杉本健: 炎症性腸疾患の内視鏡診断と重症度評価、第27回日本消化器内視鏡学会東海セミナー、名古屋、2017年1月15日

2) シンポジウム発表

1. 志村恵理、大澤恵、杉本健: 大腸炎の罹患期間が尿中PGE-MUMと臨床スコアおよび内視鏡スコアの相関性に及ぼす影響について、JDDW2016、PD9(パネルディスカッション)炎症性腸疾患の長期経過、神戸、2016年11月4日
2. 杉本健: 難治性潰瘍性大腸炎に対するアダリムマブの長期成績からみた寛解後再燃例・手術移行例の実態と特徴、第13回日本消化管学会総会学術集会ワークショップ13「難治性IBDの薬物治療最適化を目指して」、名古屋、2017年2月21日
3. 辻 孝之、辻尚子、安田日出夫、加藤明彦: AKIに対する尿中KIM-1のバイオマーカーとしての近年の評価と生物学的役割について、第27回急性血液浄化学会、東京、2016年10月28日、29日
4. 安田日出夫、辻尚子、辻孝之、加藤明彦: 敗血症性AKIの新たな治療薬 第61回日本透析医学会学術集会・総会、大阪 2016年6月10日
5. 岩泉守哉、山田英孝、梶村春彦: FAP患者における胃癌の検討—遺伝的要因が胃癌診療で重要視される時代へ—、第24回日本消化器関連学会週間 (JDDW2016) 2016年11月 神戸
6. 岩泉守哉、鳴本敬一郎、福江美咲、倉地清隆、梶村春彦、前川真人、緒方勤、井上真知子: 「大腸がんのプライマリケア遺伝診療」のための家庭医療スタッフの関わり、第22回日本家族性腫瘍学会学術集会 2016年6月 松山

3) 座長をした学会名

1. 宮嶋裕明: 57回日本神経学会、神戸、2016年5月19日
2. 宮嶋裕明: 第30回日本臨床検査自動化学会、浜松、2016年5月14日
3. 宮嶋裕明: 第17回日本早期認知症学会、熊本、2016年9月18日
4. 安田日出夫: 第59回日本腎臓学会学術総会 横浜 2016年6月17-19日
5. 安田日出夫: 第47回日本腎臓学会東部学術大会 東京 2016年10月7-8日
6. 濱屋 寧: 第231回日本内科学会東海地方会、三重県津市、2017年2月19日

4) 主催した学会名

1. 古田隆久(例会長)、杉本健(教育講演講師)、大澤恵(専門医セミナー司会)、日本消化器病学会東海支部第124回例会(アクトシティ浜松コンgresセンター)、2016.6.18、参加数450名

5) 役職についている国内学会名とその役割

1.	宮嶋裕明: 日本神経学会代議員、日本神経治療学会評議員、日本末梢神経学会評議員、日本医用マスキュラ学会評議員、日本鉄バイオサイエンス学会評議員、日本内科学会東海地方会評議員、日本神経病理学会東海北陸地方会評議員、日本神経学会東海北陸地方会幹事、日本老年学会代議員、日本神経感染症学会代議員
2.	杉本健: 日本消化器内視鏡学会 学術評議員、東海支部会 評議員、日本消化器病学会 学術評議員、東海支部評議員
3.	岩泉守哉: 日本消化器病学会 東海支部評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	2 件	0 件

(1)外国の学術雑誌の編集

1.	宮嶋裕明: ISRN Neurol (Advisory Board)
2.	杉本健: World Journal of Gastroenterology、Editorial Board、PubMed登録有、インパクトファクター2.787

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1.	宮嶋裕明: 2回 J Neurol
2.	宮嶋裕明: 1回 Biol Trace Element
3.	宮嶋裕明: 1回 Neurology
4.	宮嶋裕明: 3回 Int Med
5.	宮嶋裕明: 3回 早期認知症学会(日本)
6.	宮嶋裕明: 2回 臨床神経学(日本)
7.	杉本健: 1回 Digestion (スイス)
8.	杉本健: 1回 Journal of Gastroenterology (日本)
9.	杉本健: 1回 Annals of Autoimmunity and Research(米国)
10.	安田日出夫: 8回 Clinical and Experimental Nephrology (日本)
11.	安田日出夫: 2回 Journal of the American Society of Nephrology (米国)
12.	安田日出夫: 6回 Internal Medicine (日本)
13.	安田日出夫: 1回 Therapeutic Apheresis and Dialysis (日本)
14.	安田日出夫: 2回 Renal Replacement Therapy (日本)
15.	安田日出夫: 2回 Scientific Report (米国)
16.	安田日出夫: 2回 Plos One (米国)
17.	安田日出夫: 2回 Clinical Nephrology (ドイツ)
18.	安田日出夫: 2回 Physiologic Report (米国)
19.	安田日出夫: 2回 Journal of Occupational Medicine and Toxicology (イギリス)
20.	辻孝之: 5回 Clinical and Experimental Nephrology
21.	岩泉守哉: 4回 Oncotarget
22.	岩泉守哉: 2回 Oncology Report
23.	岩泉守哉: 1回 International Journal of Cancer
24.	岩泉守哉: 1回 Japanese Journal of Clinical Oncology
25.	濱屋寧: 1回 oncotarget
26.	濱屋寧: 1回 Cancer Science

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	1 件
(3)学内共同研究	0 件

(2)国内共同研究

1.	亜鉛トランスポーターの機能解析、京大大学生命科学、平成26-28年、試料の交換、J Biol Chem 291(8): 14773-14787, 2016.
----	--

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	1 件

1. 安田日出夫: モアソンジャパン シャント音解析

11 受賞

(1) 国際的な授賞

1. 磯部伸介: Excellent Award in the poster session, 6th CKD Frontier

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

13 その他の業績